

## 平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成30年4月17日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	42人	算数	42人	理科	42人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	40人	算数	40人	理科	40人
------	----	-----	----	-----	----	-----

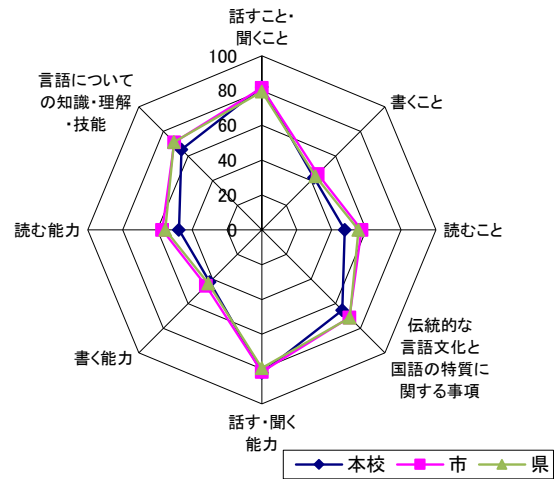
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	82.1	81.6	79.4
	書くこと	42.3	45.4	43.6
	読むこと	47.6	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.4	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	82.1	81.6	79.4
	書く能力	42.3	45.4	43.6
	読む能力	47.6	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	65.4	71.1	71.4



## ★指導の工夫と改善

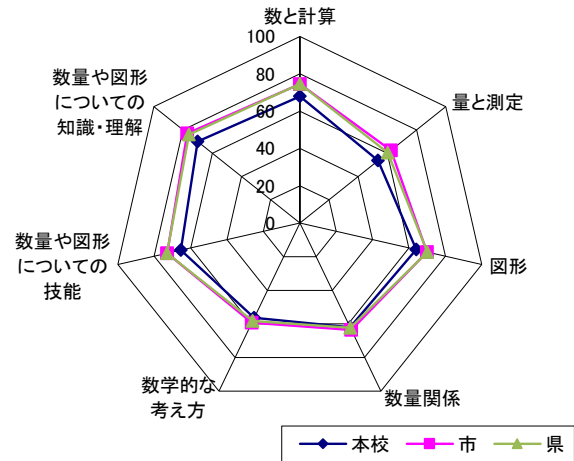
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県平均より高い。 ○理由を挙げながら筋道を立てて話す問題の正答率が県や市の平均を上回っている。	・集中して話を聞く態度を身に付けさせるため、話す聞く活動を意図的に設定するなどして、話の聞き方の指導を様々な場面で継続的に行っていく。
書くこと	平均正答率は、県平均より低い。 ○設問別の正答率の中では、メモや友達の意見を基に、報告レポートの内容を書く問題が県の正答率とほぼ同等である。 ●文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理して書くことに課題が見られた。	・何のために書くのか目的意識をもたせた活動を設定し、必要な事柄を抜けのないように順序立てて書くことなど基本的な知識を押さえて指導していく。
読むこと	平均正答率は、県平均より低い。 ●中心となる語や文を捉えたり、叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読んだりすることに課題が見られる。	・前後の文脈に着目させ、段落と段落の関係に気をつけて読む指導を行っていくとともに、読書活動を推進し、いろいろな分野の本を読むように働き掛けていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、県平均より低い。 ●ローマ字の正しい使い方に課題が見られる。 ●指示語などの言葉の使い方や国語辞典の使い方の理解に課題が見られる。	・今後も文や文章を書くときは、既習の漢字を正しく用いるよう指導を行っていく。また、国語辞典を利用して、正しい言葉遣いを確認したり復習したりする場を設定し、定着を図っていく。

# 宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.9	74.5	74.6
	量と測定	53.7	62.4	60.4
	図形	64.0	69.9	70.1
	数量関係	62.0	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	56.4	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	65.4	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	70.0	77.1	76.0



## ★指導の工夫と改善

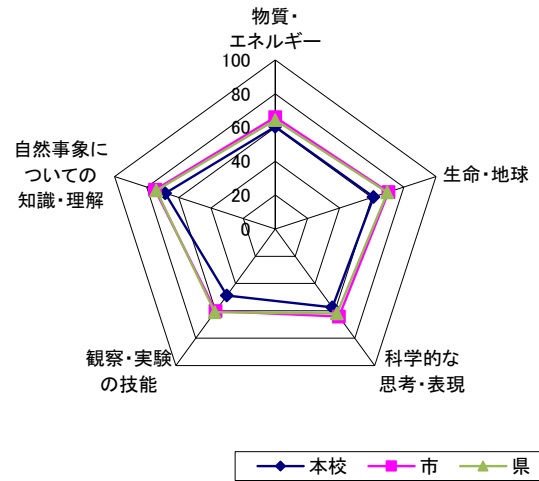
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>○3位数+3位数=4位数(繰り上がりあり)がよくできている。繰り返し計算ドリルに取り組んでいる成果が出てきている。</p> <p>○テープ図を等分する図を選ぶ問題がよくできている。</p> <p>●余りのある除法の計算の答えを確かめる式を完成させる問題について課題が見られる。</p>	<p>・わり算の計算においては、計算の仕方だけでなく、式の意味を理解させながら余りのあるわり算の答えの確かめ方が身に付くように、日頃から意識して繰り返し指導していくようにする。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●ドッジボールの重さやかごに入ったみかんの重さを求める問題について課題が見られる。</p> <p>●時間に間に合う電車の発車時刻を求める問題の正答率が低い。</p>	<p>・時間や重さなどの単位については、日常生活での経験を通して量感をつかませるとともに、問題にある場面を思い浮かべて考えていくように指導する。</p>
図形	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>○正方形に内接する円の直径を選ぶ問題がよくできている。</p> <p>●折り紙を2つ折りにし切った残りの形や正三角形の作図の仕方を求める問題について課題が見られる。</p>	<p>・三角形の作図の仕方や円の特性について繰り返し復習をする。コンパスを用いて作図する内容では、個別に丁寧に指導をしていくようにする。作図の際には書いた線を残し確認ができるように指導する。</p> <p>・書画カメラや動画などを活用して手元を拡大し、コンパスや定規などの使用方法について児童が自分で確認して、技術的な面を身に付けられるようにする。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>○等分除や棒グラフの基本的な読み取りについての問題はよくできている。</p> <p>●記述式の問題に対する解答率が低い。</p>	<p>・授業でグラフや図などを拡大して重要なポイントや内容を可視化することで、理解を深められるようにする。</p> <p>・各単元でプリント学習を取り入れ、いろいろな問題形式や計算に慣れるよう根気強く取り組ませる。</p> <p>・授業の中に協働的な学びを取り入れ、自分の考えと比較しながら話し合ったり友達との学び合いをしたりしていく中で、自分の考えをノートに記述する習慣を身に付けられるようにしていく。</p>

# 宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.5	66.1	64.4
	生命・地球	61.2	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	57.4	64.1	61.9
	観察・実験の技能	48.8	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	68.5	74.8	74.0



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>○1つの豆電球と乾電池を使い明かりがつく回路を選ぶ問題や、明かりがつくつなぎ方を推測する問題が良くできている。</p> <p>●温度計や方位磁針の適切な操作方法が分かる問題について県との比較でそれぞれ-18.2%、-12.3%と課題が見られる。</p>	<p>・今後「電気の通り道」に関連する単元としては、5学年「電流がつくる磁力」6学年「電気の利用」になるため、そこで知識理解を深められるよう引継ぎをしていく。</p> <p>・用具の使用方法については、適切な使い方の説明だけでなく、児童が実際に操作する機会を増やしながら、友達同士でも正しく使えているかどうか確認し合う活動を取り入れていくようにする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●虫眼鏡の適切な使い方が分かる問題について、県との比較で-16.8%と課題が見られる。</p> <p>●記録から日なたの温度計を選び、その理由を説明したり、図をもとに昆虫を選択し、その理由を説明したりという問題に課題が見られる。</p> <p>○物の重さを比べる道具の名称の問題が良くできている。</p>	<p>・実験の結果や観察の結果を知識として学ぶだけでなく、どうしてそうなったのか「結果」から「考察」する活動や、考えたことを交流し合いながら正しい結論を見出していく活動に重点を置き、実感を伴いながら理解していけるようにする。</p>

## 宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 早寝、早起きの基本的な生活習慣ができていると答えた児童が、県平均より5ポイント上回っている。
- 自分は勉強ができる、よいところがあると自分に自信をもって生活している児童が多い。
- 学級やグループ内の問題を話し合っ解決していこうとする対話力や互いに支え合う力、共生力が県平均より15ポイント以上高い。
- 家庭学習力が県平均より13ポイント以上高い。

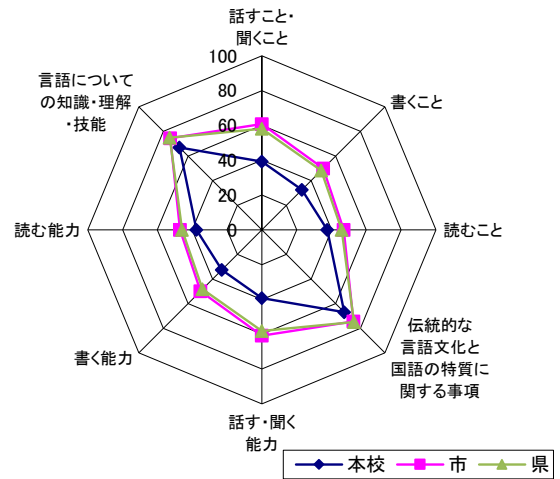
- 家庭内で学校のことや将来のことについて話すことが少ない児童が多い。また、家族内においての自分の有用性を見い出せない児童も多い。
- 学習や宿題に関して興味関心をもてない児童が県平均より5ポイント以上多い。
- 自分の考えを文章にまとめていくことは難しいと感じている児童が県平均より12ポイント以上多い。
- 分からない学習内容について自ら教師に聞く、辞書を使って調べる等の積極的自力解決を図ろうとする児童が県平均より5ポイント以上少ない。

- ・児童のやる気を計画的な学習に向けるために、月1回の漢字100題テストの実施や算数補充プリント集の導入、家庭での自主学習の奨励、チェック表やノートにおける点検を行ったことは、学習への積極的な取組を促すために有効であった。
- ・算数の学習を中心として、ノートの取り方や学習の振り返り方の指導を行うことによって、自分の考えを言葉でまとめることを苦にしなくなった児童が増えてきた。
- ・道徳では、ワークシートを用いて親子で話し合う機会を設けたことにより、学習した道徳的価値観について確認し合えるようになってきている。

# 宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	39.3	60.8	58.1
	書くこと	32.5	49.8	48.3
	読むこと	37.6	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.9	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	39.3	60.8	58.1
	書く能力	32.5	49.8	48.3
	読む能力	37.6	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	66.9	74.4	74.8



## ★指導の工夫と改善

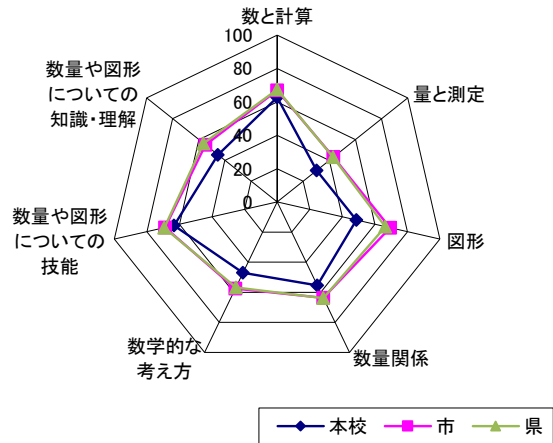
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話すことに課題が見られる。</p> <p>●インタビューの結果を基に、必要な内容を整理し相手に伝えることに課題が見られる。</p>	<p>・話し合い活動を円滑に行うための工夫を考えさせ、話し合う機会を意図的に設けることで、分かりやすく話すための様々な手法があることを理解し、実際の場面で活用できるようにしていきたい。</p> <p>・インタビューをする際には、話の要点を書き出しながら話を聞き、話を聞いて分かったことや疑問に思ったことを文でまとめる活動を取り入れていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●特に記述式の出題形式に対する正答率が低い。</p> <p>●話し合いの中で意見の共通点を考えて書くことが十分ではない。</p>	<p>・基本的な文章の書き方について繰り返し指導していくことで、段落を構成する力を身に付けさせたい。</p> <p>・意図的に書く力を付ける取組をしていくことなどを通して、学力の向上を図っていく。</p> <p>・テーマや条件を変えた意見文や説明文などを書く機会を設けることにより、自分の考えを相手に伝える適切な文章を書くことができるよう指導していく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>○叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読むことは比較的出来ている。</p> <p>●文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理することに課題が見られる。</p> <p>●中心となる語や文を捉えて読むことが苦手な児童が多い。</p>	<p>・説明文では、文章の内容や筆者の考えの中心となる語、文に着目させながら的確に読み取れるよう指導していく。</p> <p>・物語文では、今まで読んできた教科書の文章について、時間や場所の変化を表現する言葉や文、描写などを取り上げて、書かれている内容を短い言葉であらずじにしてまとめたり、場面に即した挿絵を考えながら紙芝居を作成したりするなど工夫して学習できるようにしていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、県平均より低い。漢字の読みや言葉の学習については、県平均と同等程度のスコアになっている。</p> <p>●漢字辞典で調べる方法について答える問題では、平均正答率が低く、課題が見られる。</p>	<p>・各教科の調べ学習や日常生活の中でも、国語辞典や漢字辞典を利用させ、語句を拡充したり漢字の読み書きが習得できるように指導していく。</p>

# 宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.7	66.9	67.4
	量と測定	30.3	43.2	43.0
	図形	48.7	69.4	66.5
	数量関係	55.4	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	47.1	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	63.3	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	45.3	54.9	56.4



## ★指導の工夫と改善

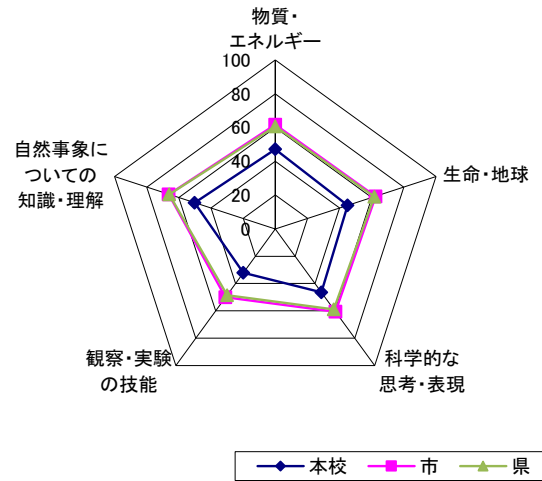
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>○1000円以内で全部買えるか見積もる方法を選ぶ問題では、生活の中での実践が生きていると思われる。</p> <p>●数直線上の矢印の値を表す数を分数で表す問題では、1を何等分したものが分母の値になるという理解が十分に定着していない児童が多く、分数の意味をしっかりと理解できていない児童が多く見られる。</p> <p>●買い物の場面で、1つの式に表した考え方を完成させる問題では、場面をイメージできない児童が多く、お釣りを求める式を一つの式で考えることに課題が見られる。</p>	<p>・計算問題などでは、プリント学習に繰り返し取り組んだことで、掛け算や割り算の正答率が平均並みであったと考えられる。今後は朝の学習時間を活用し引き続き取り組んでいく。</p> <p>・数直線上に示された数を読み取ることに課題が見られた。1目盛りが表している大きさの読み取りを丁寧に指導したり、整数や分数、小数など色々な数を数直線上に表す活動を取り入れ、数の理解を深めていけるよう指導していく。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●身近にあるものの面積を推察したり、角の大きさに見当を付けたりすることについて課題が見られる。</p>	<p>・物の大きさを考えるときに、基準となる量の大きさに照らし合わせて、測定する物の大きさの見当を付ける活動を取り入れていく。その際に、「○○○は△△△のいくつ分だから…」というような考え方を大切に指導する。</p> <p>・長さや重さなど物の大きさについて学習する際には、その大きさや量を実感できるような教具の工夫をし、児童に示すことができるように指導する。</p>
図形	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●1㎡の正方形は1cm<sup>2</sup>の正方形何枚分かを求める問題や与えられた2辺の続きをかく、平行四辺形を、作図する問題に課題が見られる。</p>	<p>・作図をする際は1mm以内の誤差でかけるように、長さを丁寧に測ったりコンパスでかいたあとを消さずに残したりすることを徹底できるようにする。</p> <p>・手順を覚えて図形をかくのではなく、「対角線の長さ」や「平行な辺」、「等しい角」など、図形のもつ性質を色々な観点から考えて作図していくよう指導する。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●問題のほとんどが思考・判断・表現を問うものであったが、解答欄が未記入である割合が高く、児童が自分の考えを書く習慣が定着していないと考えられる。</p> <p>●折れ線グラフと棒グラフを見て、目盛りの取り方の違いから発言が正しくないと説明することに課題が見られる。</p>	<p>・今後もノート指導に力を入れ、日頃から児童の記述によく目を通し、順を追って自分の考えを説明できているかを確認したり、「○○ということから△△であると言える」といった説明の仕方を指導したりして、自分の考えを図や文で表したり友達と意見を交わしたりする活動に力を入れていく。</p> <p>・協働的学び合いを授業に取り入れてきたことで、友達のことを聞き、自分の考えと比較することにより、多様な考えができるようになってきているので、今後も継続し取り組んでいく。</p>

# 宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	47.1	61.7	60.7
	生命・地球	45.0	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	46.4	60.6	58.9
	観察・実験の技能	32.1	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	50.2	66.3	66.0



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●内容別に見ると、「空気と水の性質」が最も差があり、県の平均より15.1%低い。</p> <p>平均正答率の分布では、学力層を4つに分けた時に、最上位の層とそれ以外の層の差が大きいため、全体的に内容の理解が不十分であると考えられる。</p>	<p>・今後「空気と水の性質」に関連する単元としては、6学年の「燃焼の仕組み」になるため、そこで知識理解を深められるよう引継ぎをしていく。</p> <p>・(物質・エネルギー分野では)これから実験が多くなるため、一つ一つの実験の意味を確認しながら実験をして、結果を正確にノートに記録できるよう指導していくことで知識理解を深められるようにする。</p> <p>・実験後の結果と考察を書く際には、話し合い活動などを通して考察を深める場を設定していく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、県平均より低い。</p> <p>●内容別に見ると、「月と星」が最も差があり、県の平均より20.9%低い。</p> <p>○「人の体のつくりと運動」は平均正答率が69.2%で、ほぼ7割の児童が理解している。</p> <p>平均正答率の分布では、学力層を4つに分けた時に、最下位の層とそれ以外の層の差が大きいため、一部の児童に内容の未定着があると考えられる。</p>	<p>・今後「月と星」に関連する単元としては、6学年の「月と太陽」になるため、そこで知識理解を深められるよう引継ぎをしていく。</p> <p>・(生命・地球分野では)これから視点を決めた観察等が多くなるため、結果を正確にまとめられるよう指導していく。また、生物等に対して条件を制御した実験を行うこともあるため、何を確かめているのか目的をもたせて実験に取り組みせていきたい。</p> <p>・観察や実験などの際に、机間指導を通して個別に支援していくことを心掛ける。</p>

## 宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 早寝早起きは、家庭の協力もあり定着してきている。朝食をとってくる児童も県や市の平均を上回っている。
- 教師が自分を認めていてくれると感じている児童が県や市の平均と比べて多い。担任への信頼感が高い。今後も、児童同士がお互いに相手の頑張りやよさを認め合う活動も継続し、指導に当たりたい。
- 自己肯定感が高く、自分にはよいところがあると感じている児童が多い。
- 平日の家庭学習の時間は、県や市と比べて多い。
- 自分ができることは十分に発揮したいと感じている。また達成できたことについては、大きな喜びを感じることができる。
- 家庭で話をするについて、A層とD層での差が大きく、家庭によって子供との関わり方が大きく違っていると推察される。学年だより等を通して、子供たちの学校での様子を伝え、話のきっかけを作れるようにしていく。
- 学習意欲が低く、自分から取り組んでいると感じている児童が少ない。また、学習内容に対しては、興味や疑問をもつ児童が、A層とD層では大きく差が開いている。学級全体で意欲が高められるような教材研究を行うなどして、全体の意欲が高められるようにしていく。
- 自己肯定感が高いが、それを学級の中で生かすことができず、役に立っていると感じている児童が県や市の平均と比べて低い。一人一人が活躍できる場を設定する等、自信を付けられるようにしていく。
- 勉強ができると感じる児童とできないと感じる児童の差が大きい。そこは、授業に集中できているかそうでないかが大きく関係していると思われるので、こまめに声掛けを行い、日々の授業でしっかりと取り組めるように指導していく。
- 担任とは話がしやすいが、全体やグループで自分の考えを発表することや考えをまとめることには苦手意識がある。授業の中で話し合う活動を多く取り入れているなど、発言しやすい雰囲気づくりを大切に、より豊かな学び合いになるよう指導していきたい。
- 地域や社会で起こっていることに対しては、関心がやや低いので、地域の行事などに参加したことなどについて朝の会等で触れながら関心を高められるようにしていく。
- 国語・理科・社会・総合など自分の考えや課題をもち、追及していく教科には苦手意識がある。特に国語については、授業の内容を理解できない児童が多く見られる。苦手意識を克服できるよう、家庭での復習を呼び掛けるなど、学んだことを活用できる場を設け、定着を図っていく。
- 読書の時間が県や市と比べて少ない。3分の1の児童は読書を全くしないという結果が出ている。また、新聞を読んでいる児童の割合も少ない。できる限り学級で図書室利用をしながら、本を手にする習慣を付けさせる。
- 長時間ゲームをしている児童が県や市より多い。家庭へ呼び掛け、時間の使い方を改めて指導していく。

## 宇都宮市立豊郷北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習における基礎基本の定着	朝の学習の時間を活用して基礎基本の定着を図る。また、かがやきルームや、TT、習熟度別及び少人数での指導を通して、個に応じた学習支援を行う。	学習に対して「自分から進んで取り組んでいる」児童は4年生で75.6%、5年生で63.2%である。クラスや教科でA層とD層の児童の差が大きい。
学習のねらいを達成させるための学び合い	授業の振り返りの時間を確保し、自分の考えをノートに書く習慣を身に付ける。ペアやグループ、全体での協働的学び合いを充実させる。話し方・聞き方のポイントを示した掲示物の活用。	「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の設問で肯定的回答した割合は、4年生で82.9%、5年生で79.5%であり、どちらの学年もA層とD層の差がなかった。「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の設問で肯定的回答した割合は、4年生が90.2%、5年生で61.5%である。
家庭学習への取組	家庭学習の手引きを活用し、計画的な家庭学習を行えるような働き掛けをするとともに、児童への取組について称賛や個別支援を行う。	家で学校の宿題をしている児童は、4年生、5年生ともに100%である。しかし自分で計画を立てて勉強している児童は、4年生が75.6%、5年生が69.2%である。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、各教科における基礎的内容の理解が不十分であることが分かった。特に活用の問題で正答率が低い傾向にある。	復習を中心に定着させる学習の充実	3年生以上の学習で主に算数の習熟度別学習やTT等の学習形態を工夫し、単元によるコース別学習を取り入れることで、分かる授業の実現を目指すようにする。 低学年の段階から、読み・書きの基礎的な力を高めるために個に応じた教材の活用を図っていく。 実験器具等の正しい使い方について繰り返し指導するとともに、記録した結果を分析、考察してまとめていく活動を丁寧に進める。